



●提案 -25・色彩測定環境の整備を

1958年に就職した時から、2013年に退職するまで、常に私の身近には色彩計が存在していました。最初は日立製作所製のEPR2型分光光度計という床置き型の大きな機械で、色度計算は手回し型計算機で行うものでした。その後、環境色彩計画の仕事に代わってからも、色彩計は必須の道具でした。

高速化と小型化が徐々に進み、遂に建築物の色彩計測のために野外調査に携行するまでに小型化し、記録性も向上しました。

日本色彩学会会員は、色彩計を日常的に使える環境にありたいものです。

しかし、そのような人が何%いらっしゃるのでしょうか。私も退職とともに色彩計と縁が切れました。

学会員が色彩測定をしたい時に、利用できる環境があると便利です。学会事務局や支部の事務所などに型落ちの機種でも構いませんが、学会員が外向いて、有料で計測できたり、短期間の貸出ができないものでしょうか？

企業などでは、買い替えと同時に不要となる色彩計が出てきます。ホームページなどで寄付の呼びかけをしてみることもいいでしょう。学会員なら誰でも色彩計が使えるというステータスを与えてください。(永田泰弘)

●貴石の色・珊瑚

珊瑚の色は、赤、ピンク、白、黒があります。赤は血のような色という意味から、血赤珊瑚と言われる高級な珊瑚で宝飾品としても希少です。英語ではブラッドコーラルと呼ばれています。穏やかなピンク色が価格的にもお手頃で日本人には人気です。ピンクは老化を防ぎ美しさをアップする色と言われます。

桃の花の色に似ていて、3月の誕生石に桃色珊瑚が桃の節句に相応しいのですが、日本限定のようです。白や黒の珊瑚もあり、柔らかい材質なので、アクセサリとしても加工しやすいと、言われています。白は乳白色の白で、黒は磨きをかけると艶がでて、大人の落ち着いた色としても人気です。

珊瑚は、南大西洋海域、地中海、バルト海、日本海、などの海からの贈り物として、天然の珊瑚は子宝や長寿の意味があり、血赤珊瑚は、結婚35年の贈物として喜ばれています。

(田森恭子)



赤珊瑚



桃色珊瑚

●芥川龍之介の短編小説の色ー 14

◆山嶋（ヤマシギ）（大正九年十二月）

1880年5月の日暮れ方に訪ねたトウルゲネフは、トリストイ伯爵、トリストイ夫人、子供たちと山嶋を撃ちに出かけた。

トリストイが、先に山嶋を射落とす、子供たちと犬が拾いに行く。

宵闇の中、山嶋が舞い上がった瞬間トウルゲネフは引き金を引いた。「当たったかね」と問うトリストイに対し「当たったとも。石のように落ちてきた。」と答える。

子供たちは犬を先頭に獲物を探し歩いたが山嶋の屍骸は見つからなかった。トリストイは打ち損じたのだろうと言い、トウルゲネフは石のように落ちたと主張する。

トリストイ夫人が二人に「明朝もう一度子供たちを探しによこすから」と仲裁に入る。

翌朝、まだ互いに和睦しない二人の翁の前に、子供たちが飛び込んできて、「落ちる時に引っかけたのでしょ。白楊の枝にぶら下がっていました。」と告げる。二人の翁は顔を見合わせると、言い合わせたように哄笑した。

◇「空は・・・だんだん蒼い色を沈めて来る」という表現は心の残る。浮いた色と沈んだ色という色の尺度も確かに有る。(永田泰弘)